

子どもとの「距離」のとり方

昭島市立拝島第一小学校

副校長 眞砂野 裕

グループの状態を見極めましょう！

- ①フォーミング：いわゆる「ネコをかぶっている」状態
- ②ストーミング：我を出しあう状態
- ③ノーミング：お互いを認め合う状態
- ④パフォーミング：自分たちで行動を起こせる状態
- ⑤トランスフォーミング：一度解散した後、再始動する状態

ルールを作るのに適切なタイミングはどこでしょう？

「仕掛ける」順番を工夫しましょう！

- ①アイスブレイク:「やってもいいかな」いわゆるウォーミングアップ
- ②デイ・イン・ヒビタイザー:少し恥ずかしさを伴うエクササイズ
- ③イニシアティブ:課題解決型のエクササイズ
- ④トラスト:信頼関係をさらに深めるエクササイズ

チャレンジ・バイ・チョイス(選ぶのは本人)という考え方があります。

<個人編>

「信頼関係」が距離感を確立します

- 信頼関係を築く！その第一歩は「きちんと向き合う＝認めること」 cf: コンビニの店員さん
- ①何を認めるか: 見える努力と見えない努力／言動の裏にあるもの
- ②いつ認めるか: みんなの前でか？二人だけの時か？ cf: ポケットの時間
- ③どのように認めるか: 大げさに／一言をくりかえす／本人だけに伝える／第三者から

「認める」～あなたならどうしますか？

<ケース1>

- 注意されることの多いAくんが、落ちているボールを拾った場面を見かけた。あなたならどのように対応しますか？（Aくんは見られたことに気付いていない）

※やってはいけない認め方

条件付き「いつもこうなら・・・」

比較する「〇〇さんならもっと・・・」

付加する「もっとこうしてくれたら・・・」

「注意」の仕方もひと工夫

～「注意」でも信頼関係を結べるのです～

- ①何を注意しているのか：恐怖だけでは繰り返す、慣れてくる
- ②いつ注意するのか：基本の答えは一つ！
- ③「人格」ではなく、「行為」を注意！
- ④最後の一言を忘れずに！
“あなたを見えていますよ”光線

「注意する」～あなたならどうしますか？

<ケース2>

- 「え～ん・・・Bさんにぶたれたあ」暴力を振るってしまふことの多いBくん。注意しても「だって！・・・」と反発ばかり。あなたならどのように対応しますか？

※やってはいけない注意の仕方

人格否定「君のような子は・・・」

(別件を)付加する「話も聞かないし・・・」

圧力で押さえつける

「なめられている」と感じたら・・・ ～あなたならどうしますか？

<ケース3>

子どもたちにとって身近な存在でありたい、と接してきたらいつの間にか「～ちゃん」と呼ばれたり、言うことを聞かなくなってきたり・・・怖い先生の言うことは聞くのに・・・

※「距離」を取り直す機会を設けましょう

オンとオフで言葉遣いにけじめをつける

子どもの視点で自分を振り返る機会を作る

子どもの空間に入ってみる

まとめにかえて

①話し方

<アテンション> <ナンバリング> というスキル

②表情

どんな顔で接していますか

③服装

見かけも大切です！

④どうしても、関係が作れないときは・・・

⑤私たち自身が生き生きと！

～ニューロンを伸ばしましょう～

⑥何のために「学ぶ」のか